

平成28年度第3回 教育委員会会議 会議録

- 1 日 時 平成28年5月24日（火） 13：15～15：44
- 2 場 所 3号館8階教育委員会室
- 3 出席者 <教育委員会>
雪村教育長 森本委員 梶木委員 伊東委員 大塚委員 福田委員
<事務局>
林教育次長 岡田スポーツ担当局長 稜野総務部長
川田指導部長 日下社会教育部長 後藤教育施策推進担当部長
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 1名
- 6 会議内容

（雪村教育長）

本日は、議案4件、協議事項1件及び報告事項6件です。このうち教第8号議案及び教第9号議案については、教育委員会会議規則第10条第1項第2号により、職員の人事に関する事。報告事項1及び報告事項2については、教育委員会会議規則第10条第1項第5号により訴訟に関する事。協議事項3及び報告事項3については、教育委員会会議規則第10条第1項第6号により、会議を公開することにより教育行政の公正かつ適正な運営に著しい支障が生じるおそれのある事項であって、非公開とすることが適当であると認められるものとして、非公開としたいと思いますが御賛同いただけますでしょうか。

（6名の賛成により、非公開案件を決定）

（雪村教育長）

それでは、教第10号議案神戸市総合教育センター条例施行規則の一部を改正する規則の件について、総合教育センターより説明をお願いします。

教第10号議案 神戸市総合教育センター条例施行規則の一部を改正する規則の件

（川並総合教育センター副所長）

教第10号議案神戸市総合教育センター条例施行規則の一部を改正する規則の件について説明します。

3月の暴力団排除条例の一部改正を受けて、神戸市総合教育センター条例施行規則で定める様式を改正することとなりました。

規則の一部改正に関して、神戸市行政手続条例に基づき、意見公募が必要になります。3月25日教育委員会会議において規則の改正案をお示しし、意見公募をすることに関して審議いただきました。それを受けて4月11日から5月10日までの間、意見公募を実施しました。この間いただいた意見は、ゼロ件でした。

については、センター使用申込書などの様式改正を行うため、神戸市総合教育センター条例施行規則の一部を改正する規則を制定するものです。

様式改正の具体的内容は、3月25日の教育委員会会議においてごらんいただいたものと同様です。資料に改正後の様式案、施行日と改正理由、新旧様式を対照したものを添付しています。

審議をお願いします。

(雪村教育長)

この件について、いかがでしょうか。

御意見がないようでしたら、規則改正について承認してよろしいですか。

(6名の賛成により可決)

(雪村教育長)

続いて、第11号議案神戸市公民館条例施行規則の一部を改正する規則の件についてお願いします。

教第11号議案 神戸市公民館条例施行規則の一部を改正する規則の件

(宮崎生涯学習課長)

11号議案、神戸市公民館条例施行規則の一部を改正する規則の件ですが、先ほどの総合教育センター条例施行規則の一部を改正する規則の件と内容的にはほぼ同じです。暴力団の排除の推進に関する条例に基づいて、様式の一部を変更することが大部分で、これについて4月11日から5月10日にパブリックコメントを行い、いただいた意見はゼロ件でした。特に意見がなかったため、規則改正の手續に入っていきたいと考えています。

様式のところで、今回の改正に伴い、葺合、清風、南須磨、東垂水、玉津南のそれぞれの公民館においてICTの関係の講座がなくなった——もともとパーソナルコンピューターでやっていたものがタブレットですとかスマホ等に移ったということもあり、住之江と長田を除いて、パーソナルコンピューターの表記を取るという形にしたいと考えています。

様式の変更は、先ほどの暴力団排除条例絡みの部分と、このパーソナルコンピューターに係るものを外すという内容です。よろしくをお願いします。

(雪村教育長)

この点について、何か御質問等ございませんか。

これは、金額は1件も変わってないですね。

(宮崎生涯学習課長)

変更点は、表記を取ったというところで、金額は変わってないです。

(雪村教育長)

この規則改正、承認いただいてよろしいですか。

(6名の賛成により可決)

(雪村教育長)

はい、ありがとうございます。

続いて、報告事項4ですが、平成28年度 第1回「保護者対象 教育相談講演会及び個別面接相談」についてお願いします。

報告事項4 平成28年度 第1回「保護者対象 教育相談講演会及び個別面接相談」について

(川並総合教育センター副所長)

報告事項4 平成28年度第1回「保護者対象 教育相談講演会及び個別面接相談」の実施についてです。

本事業は、3年目を迎えます。6月9日木曜日に第1回目を開催しようとするものです。昨年、一昨年と同様、午前中に講演会を行い、午後に個別面接相談を行います。今年度は、講演会に手話通訳者を置くこととしました。また、直接センターへ申し込むという方法に変更して、少しでも学校の事務の軽減を図りたいと考えています。

昨年は、午前の講演会には425件の申し込みがありました。また、午後の個別面接相談には、51件の申し込みがありました。個別面接相談は12件の相談枠となっていますので、当日の相談の抽せん結果を個別に電話でお伝えしていきます。その中で、実質的に電話相談を実施する形で終わるものや、別途、相談日を設けて通常の面接相談の中で対応するケースがあります。

また、7月には第2回、10月には第3回の教育相談講演会及び個別面接相談会を開催する予定にしています。

以上で、報告を終わります。よろしくお願いいたします。

(雪村教育長)

講演会及び個別面接相談について、いかがでしょうか。

(森本委員)

学校にお願いして配布をしてもらうということで、知らせる方法は変わっていないですか。それから回収は直接、総合教育センターですか。

(川並総合教育センター副所長)

そうです。郵送やファクスですとか、電話申し込みでお受けしています。

(森本委員)

学校ではもう集約はしないということですか。

(川並総合教育センター副所長)

はい、そうです。

(森本委員)

「どこの学校から何名ぐらいが参加します」といった情報は、学校に返されますね。そうでなかったら、学校には何も情報がなくなってしまう。自分のところから誰が行ったのかというのがわからなかったら、そこで途絶えてしまいます。非常に事務が煩雑になりますけれども、そこのところを十二分にしてほしいと思います。

(川並総合教育センター副所長)

はい、返します。

(梶木委員)

去年の第3回で個別面接を33件やっておられますけれども、今回は12件ですか。

(川並総合教育センター副所長)

いつも、当日にできる枠は12件しかありませんので、それを超えた分については、別途、保護者の方と相談をする日を設けて、通常の面接相談を行っています。その中で相談させてもらう形のもものが33件ありました。

申し込みがあっても、電話で「抽せんに漏れました」と回答する中で、実質的には電話相談になる場合があります。その場で解決して終わったということもありますので、相談を行ったのはこの件数ということです。

(梶木委員)

毎年、多いと聞いているので、本当は枠をふやすことが必要だと思うのですが、難しいですか。

(川並総合教育センター副所長)

今、1時から50分ずつ、つまり約1時間ずつを4時までですので、3時間について相談員4人を配置してやっていますが、これをさらにふやすとなりますと、相談員の方の手配も難しくなりますので、今のところ、当日は12人の枠でさせていただきたいと思っています。

(森本委員)

例えば、不登校やいじめ100%の解消と新聞報道があったように、統計的なことが非常に話題になりますね。実際は、統計も大事なことでしょうけれども、こういう場で、子供が親に求めていることとか、センターが発信されるべき内容を十分に発信していただければと思います。

(川並総合教育センター副所長)

はい。

(雪村教育長)

報告事項4についてよろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

続いて、報告事項5 平成28年度神戸市立工業高等専門学校入学者選抜状況及び平成27年度卒業生進路状況についてお願いします。

報告事項5 平成28年度神戸市立工業高等専門学校入学者選抜状況及び平成27年度卒業生進路状況について

(岸田工業高等専門学校事務室長)

報告事項5について説明します。

推薦の学力試験を1月22日、学力検査による試験を2月21日にそれぞれ実施しています。28年度から、理科の試験と、マークシート方式を導入しています。

28年度の入学者の選抜状況です。推薦で不合格でも、学力検査を受検することができる

ため、推薦と学力検査の志願者は、ほぼ併願していて、重複しています。募集人員の40%程度を推薦で合格させています。

28年度の推薦の志願者が202名で、合格者94名です。学力の志願者は推薦と学力の併願者と、それから、学力のみの専願をあわせて339名です。339名のうち受検者238名というのは、推薦で合格した者等を除いた数字です。238名が受検し、合格者が146名です。合格者合計は240名で、うち33名が女性です。

志願者倍率は1.4倍で、昨年度1.6倍、26年度1.7倍からは志願者倍率は下がってきている状況です。各学科の志願者倍率は、資料のとおりです。

合格者の市内外の別ですけれども、240名のうち、市内の合格者が135名で、市内率が56%でした。27年度の51%から上昇しています。

学力志願者数の推移です。28年度が339名ですけれども、24年度がこの10年間で最も高く、473名でした。24年度の学力志願者数が多かったのは、23年3月に東日本大震災がありました。その志願者は24年2月に入学試験を受けたんですけれども、23年度は東日本大震災の影響で、原子力の稼働停止とか電力不足等や耐震化工事等といった話題があり、都市工学科は42名から87名、電気工学科は47名から105名という形であり、さらに全体でも志願者数がふえています。

25年度以降は毎年志願者数が減ってきており、28年度は、ここ10年間で一番志願者数が低く、339名になっています。これは普通科志向が最近進んできていることや、学区拡大の影響、それから、学力検査に理科を導入したことも影響しているのではないかと推測しています。

28年度の志願者倍率は1.4倍です。この10年間で一番倍率が高かったのは、24年度の2.0倍です。

27年度の卒業生の進路状況です。本科の卒業生数は209名です。そのうち、就職希望者121名に対して内定者が120名、内定率が99.2%です。進学希望者が87名、そのうち進学者が84名、合格率は96.6%です。進学率は40.2%で、就職した者が57.4%です。

自営・その他として、5名が就職も進学もしていない学生でした。その内訳は、機械工学科の2名——希望のところに就職できなかった就職浪人1名と進学浪人1名。それから応用化学科、この1名は自営業をしています。それから、都市工学科2名は進学が希望にかなわず、進学浪人している者2名です。

求人件数は2,273件あり、求人数が2,344人で、求人倍率が19.4倍。26年度の16.2倍より求人倍率は上がっています。

専攻科は、卒業生数が37名に対して、就職の希望が19名、内定が19名。進学は18名に対して進学した者が18名、進学率は48.6%です。

大学等進学状況です。本科から大学等に進学した84名の内訳です。一番多いのが、神戸高専専攻科で27名です。その次が、豊橋技術科学大学の12名、それから、神戸大学の6名と続きます。

就職企業業種は120名のうち、製造関係に一番多く進んでおり、80名でした。その中でも電気・通信関係に30名と一番多く進んでいます。

専攻科の進学状況です。大学院等への進学状況になりますが、18名のうち、最も多いのが大阪大学の大学院の5名です。就職企業業種別としては、19名のうち、製造関係が8名で最も多く進んでいます。

(雪村教育長)

就職状況、卒業状況、進路状況についていかがでしょうか。

(梶木委員)

進学浪人というお話がありましたけれども、高専の中で、例えば大学院に上がる専攻科の学生向けに、何か補習や特別な授業といった進学希望者に対する受験対策のようなフォローはされていますか。就職課のようなところはあると思いますけれども、進学者に対してはどんなふうにされていますか。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

各学科の学科長の先生が中心にはなりません。それと、担任の先生がいますけれども、本科であれば、企業の就職もそうですけれども、受験や面接の受け方などの指導を大学の編入についても行っています。

(梶木委員)

学力的なことは、特にされていないんですか。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

アドバイスはされていますが、特別に授業時間をとってという形ではないと思います。

(梶木委員)

就職は、割とフォロー体制があると思いますけれども、結構な数の学生が進学等の就職以外に進んでいるので、どうされているのかと思いました。高専の中では専攻科の上がないですが、専攻科から、例えば大阪大学に行くのは、一般入試で行くんですね。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

そうです。一般の大学院の試験ということになります。

(梶木委員)

皆それぞれ、一生懸命勉強するということですか。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

そうです。編入学する学生は、仮に推薦などがあっても、選抜になります。その推薦がだめであれば、学力で試験を受ける形になります。

(梶木委員)

入り口と出口と両方が大事だと思います。数の上では少ないですけども、出口のところで少し足踏み状態の人がいるという説明だったので、全員が就職なり進学なりできるような体制に持っていくことがすごく大事だと思います。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

もちろん浪人の学生に対しては、卒業はしていますけれども、就職の相談に乗るとか、進学の相談に乗るとかといったフォローを先生がしています。

(梶木委員)

ありがとうございました。

(福田委員)

ほかの高専と比べて、大学等へ進学、あるいは大学院へ進学する比率はどの辺のレベルですか。神戸高専には何か際立った特徴的なものはありますか。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

大体6割が就職で、4割が進学というのが平均的なところですが、お近くの明石高専は、進学のウエートが高いと聞いています。

(福田委員)

高専の卒業生は、就職はいいですからね。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

もちろん、第一希望で決まる学生ばかりではないですけども、就職は求人倍率が昨年度からまたふえている状況で、いろいろな求人がありますので、就職を希望する学生は、100%就職しています。

(福田委員)

就職企業一覧を見るといろいろと名前が挙がっていますが、地元にかなりの方が就職されていると見ていいですか。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

一覧にある企業の中で、神戸市内に本社や事業所がある企業は、本科の場合は15名、13社となっています。12%にあたります。多いのかどうかは判断しかねますが、地元の企業からは、もっと地元の企業に就職してほしいというニーズはあります。

(森本委員)

幾つかありますけれども、例えば、志願倍率が24年度から28年度と下がってきています。分析されたら、学区の統合、学力検査に理科を導入したこと、それから普通科志向があるのではないかと指摘されましたけれども、これは来年からも変わることはないですよ。このままいくと、同じような傾向が続くのではないかと考えていますか。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

ここまで毎年のように志願者が減ってきています。ただ志願者が減ったことによって、学力が下がっているかということについて検証しており、入学後毎年4月に数学と英語の学力試験を実施しています。ことしも、理科を導入したこと等によって、志願者数が減っており、内申が今までより低くても合格している学生がいますけれども、数学学力の試験をした結果、28年度入学生の平均点は前年度を上回っており、ここ5年間でも、24年度に次いで、2番目に高い平均点になっています。

それから、英語の試験は、昨年度の平均点よりも1.5点ほど下がっていますが、最低点は前年度よりも上がっていますので、入ってきた学生の学力については、前年度と遜色はないと考えています。

数学と物理については、3年生のときに学力の全国統一の試験をやっており、3年生の学力を継続的に比較していくと、神戸高専は全国の平均レベルより上回っている状況がずっと続いています。ですので今の段階では、志願者数が減ってきていることによる学力低下等の影響はないものと思われま。ただ、今後も志願者数が減っていくことについては、危機感を持って、志願者数をふやしていく方策、特に中学生に対するPRや中学校の先生方に対する進路指導のPR等をさらに力を入れてしていく必要があると考えています。

(森本委員)

年に3回ぐらい希望調査などの相談が中学校であります。経験がないので、中学3年生の子たちが自分の進路を選ぶということは大変なことです。そのときに、高専から余りマイナスのことは伝える必要はないと思います。例えば、冒頭に言われた理科を導入したから志願者が減ったとか、志願者数が右肩下がりになっていると、そういうことを余り外部に言うと、じわじわと影響があると思います。

3年生までは高等学校と一緒に、プラス2年生は大学生のようになっていることとか、

学校の中では学生と呼ばれているのか生徒と呼ばれているのかとか。一遍、学校生活の様子を見に行ったらわかりますけれども、服装は自由だと思うし、バイク通学はどうだとか、そういうよさみみたいなことや、18歳で大学受験がなくて、自分の希望の大学に行こうと思ったときに、行くルートを持っているということもありますね。

中学生は損得では動かないと思いますし、最終的には学力も関係してきますけれども、とにかくプラスの情報、イメージを発信することと、学校生活のイメージというのを中学生が知らなかったらだめですよ。

私はこべっこランドにいたからわかりましたけれども、びっくりするぐらいたくさんイベントをしていますよね。高専の子がおきしお号でよく来ていました。そういうことは、小学生は知っていますけれども、中学生は知らないですね。

自分の進学先だとか、あるいは就職先を決めていける、非常にいいルートだと思います。中学生の子たちに学校生活、学生生活を伝えるような工夫をもっとされたらいいと思います。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

選択肢が広いと思います。大学に進む道もありますし、就職する道もありますし、専攻科とか大学院に行く道もあります。

(森本委員)

中学生の子たちにたくさん情報が伝わったら、右肩下がりになることはないと思います。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

もっと努力が必要なところと思っています。確かに、中学生の段階で各学科までイメージしにくいのではないかと高専の中でもいろいろ議論がありました。それでも、高校に入れば1年後には大学受験に向けて、理系に進むか文系に進むかというような選択をするわけですから、物づくり、工学系に進みたいという学生をいかに高専に目を向けて受験してもらうか、そのアピールの仕方かなと考えています。

(梶木委員)

理科を入試に導入してはどうかと提案したので、成績が下がっていないであろうという話は少しうれしいです。理科好きの子が受けてくれたのかなと思っています。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

そういうふうには分析はしています。分析はもう少し継続的にやらないとわからないところがありますが、先生方の感覚的には去年の学生よりも数学とか理科に興味を持つ学生が多いような気がするということですので、そういう意味では、高専にふさわしい学生が来

てくれているのではないかと期待も込めて思っています。

(梶木委員)

それをまたアピールしていったって、そういう子がどんどん集まってくるようになればうれしいと思います。頑張ってください。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

ありがとうございます。

(雪村教育長)

就職・進学状況で、本科の就職の小計が121名と120名で1名の差があります。それから進学の小計が87名と84名で3名の差があり、合計4名の差があります。それと、自営・その他の5名との差について、説明してくれますか。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

この応用化学科の1名というのは、就職の希望も進学も希望していなかった学生です。最初から自営といいますか。

(雪村教育長)

この「1」は、自営ですね。
そのほかの4人は、どうしていますか。

(岸田工業高等専門学校事務室長)

就職浪人と進学浪人です。

希望のところに進めなかったのが、卒業したけれども、希望のところをまた今年度目指していくということで、先生方もそういう指導をしています。

(雪村教育長)

そうですか。はい、わかりました。
ほか、特によろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

続いて、報告事項6 神戸市スポーツ特別賞被表彰者決定についてお願いします。

報告事項6 神戸市スポーツ特別賞 被表彰者決定について

(上田スポーツ体育課長)

報告事項6です。岡崎慎司さんを神戸市のスポーツ特別賞の被表彰者に決定をするというものです。滝川第二高校出身です。

表彰内容は、イングランド・プレミアリーグ2015-2016シーズンで優勝したというものです。よろしくお願いします。

(雪村教育長)

スポーツ特別賞について、いかがですか。

いつごろ表彰する予定ですか、あるいは調整中で、めどは立っていないですか。

(上田スポーツ体育課長)

6月に一度戻ってこられますけれども、日程はまだ決まっていません。

(岡田スポーツ担当局長)

どうしても無理な場合は、代理の方にとということもあり得ます。

(森本委員)

基本的なことをお聞きしますが、神戸市に生まれたとか、神戸市の学校で育ったとか、神戸にゆかりのある方が対象ですよ。

(上田スポーツ体育課長)

神戸市の小学校、中学校と、それから神戸市で今、頑張っているといったゆかりのある方を対象としています。

(生野スポーツ体育課市民スポーツ係長)

岡崎選手については、生まれは宝塚で、小・中学校は三田です。神戸にゆかりがあるのは、滝川第二高校で3年間サッカーされていたということです。

(福田委員)

レスターという町を有名にした男ですね。神戸市をもっと有名にしてほしいですね。

(雪村教育長)

御質問等ございませんか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

それでは、主要行事についてよろしく申し上げます。

その他の報告事項 主要行事予定

(豊永総務課長)

前回以降の主要行事は、記載のとおりとなっています。今後の主要行事予定ですが、5月28日から6月11日まで、運動会、体育会がそれぞれの校種で行われます。それから、5月31日は、指定都市の教育委員・教育長協議会が神戸で開催されます。6月6日は、兵庫中学校北分校——夜間中学校の視察が入っています。

それから、委員会会議は、6月7日火曜日が定例会となっています。よろしくお願いたします。

(雪村教育長)

御質問やつけ加えるものございましたらお願いします。

指定都市教育委員・教育長協議会は、委員の皆様の予定はどんな感じでしょうか。

(田中総務課調整係長)

福田委員のみ御欠席です。

(雪村教育長)

そうですか。ありがとうございます。

特にその他のことについてよろしいですか。

(「はい」の声あり)

(雪村教育長)

はい、ありがとうございました。

そうしましたら、その他、教育委員の皆さんから委員会会議で取り上げるべき項目について、御意見はございませんでしょうか。

また、後日でも結構ですので、何かございましたら事務局までお伝えいただきたいと思えます。

それでは、非公開案件に入ります。

傍聴者の方は、退席をお願いいたします。

閉会 : 午後 3 時44分